マイスターだより

川西町立小松小学校
令和８年５月１９日（火）No,6
文責：情野　夏美

資質・能力向上研究協議会に参加してきました！

昨日、まちりあで行われた資質・能力向上研究協議会に参加してきました。石川県加賀市教育委員会事務局　事務局長　小林　湧氏の講演を聞いてきました。講演の内容をお知らせします。本校の校内研究にも大きく関わる内容でしたので、ご一読ください。なお、当日の資料、情野のメモも回覧します。キーワードは「委ねる」でした。

演　題
「対話を通して、新しい価値等を想像していける研修」

〇対話とは・・・分かち合うこと（見る、聞く、感じる、考える、問う、語る　こと）

〇どんな授業を行いたいのか＝児童にどんな力をつけたいのか

〇子どもが多様化しているということは、指導も<u>そろえるから多様性へ</u>と進化させなければいけない。

〇一斉と個別は目的に合わせて使い分ける。
一斉・・・課題把握など　　個別・・・委ねる

〇授業を「型」で語らないこと。

〇理想―現実＝課題→手法（つけたい力が必要）ねらいが違うと手法が変わってくる。

〇子どもが授業の主役→教師がどんな学習方略を使っているかによる。
学習方略…学習効果を最大化し、目標を達成するために自ら生み出す思考・感情・行動の工夫やプロセスのこと。

〇子どもに委ねる部分は、学級経営につながっていく。

〇自己選択、自己決定の場を作っていく。

〇子どもに委ねるために、**ピン**を打つ。→どういう見方（ポイントを示す？見いだす？）・考え方（比較、つなぐ、多角的・多面的）でどう指導、評価するのか。

〇授業の作り方
① ねらいの設定
② ゴールの設定（モチベーション、自分事）
③ 導入の工夫（モチベーション、自分事）
④ 活動の設定（手立て、学習環境）
⑤ ふり返りの深化（フィードバック、メタ認知…自分自身の思考や感情、行動を客観的に把握し、コントロールする力）

〇<u>単元構想</u>を作る。手立てや準備はそれから。ねらいや見通しなどを児童と共有する。